

御所見通信

2018年5月1日

5月号

藤沢市立御所見小学校

校長 三橋 雅幸

御所見の由来

今月28日は、御所見小学校の開校記念日です。明治25年の開校から今年で126周年を迎えます。御所見小学校の前身である用田学舎（明治6年11月開校）からは、145年ということになります。

全国的にも珍しい“御所見”という地名。御所見小学校という名前の学校も全国で1校しかありません。地名の由来は、次のような言い伝えがあります。

昔、桓武天皇の第三皇子葛原（カツラハラ）親王が、京都から来て葛原の地に御所をつくり、付近の山野を散歩したときに直径10数m、高さ5m程の塚に登り、自分の館を眺められた。その塚を、のちに御所見塚と呼ぶようになった。

また、別の伝えでは、葛原親王の子孫の長田忠望が館を構え、垂木御所と呼ばれた。その御所が、菖蒲沢の塚から展望できたので御所見塚と呼ぶようになった。

いずれの話も、今から1000年以上前の平安時代の話。歴史的に由緒ある地名だと言うことがわかります。明治22年に六ヶ村が合併した際、御所見塚から名前をとり高座郡御所見村に、村の小学校は、明治25年に尋常高等御所見小学校となりました。

御所見塚は、昭和35年に工業用地となり、整地されてしまいました。現在は、御所見塚の記念碑が、場所を移して御所見市民センターの一角に立っています。

御所見以外の地名にも、興味深いものがたくさんあります。葛原は葛原親王から、用田は寒川神社の御用田から、打戻は宇都母知神社から、菖蒲沢は、菖蒲が生えていた地形からと言われていています。小字名でも、中將、六地藏など民話と関係する地名が残っています。御所見小がある場所は、上ノ原ですが、隣の中里小は中島と古里にまたがって建設されたので「中里」と命名されたそうです。

古い地名がたくさん残っている御所見地区は、地名をたどることで、いろいろなことを学習できそうです。



市民センターにある御所見塚の碑